

1. 事業細目：漁場保全研究調査費

予算額 1,400千円

2. 研究名：琵琶湖定期観測

予算区分 県単

3. 研究期間：昭 年度～ 年度

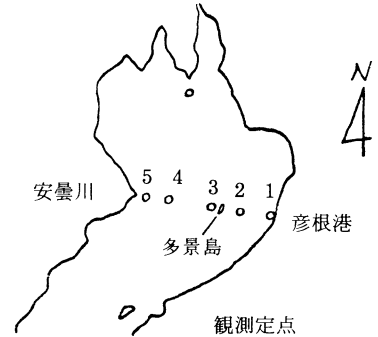
4. 担当者 森田、橋本、前河他

5. 目的

水産生物の生産の場である琵琶湖の環境の変化を定期的に観測し、往年の結果と比較検討して、環境動向を把握するとともに、漁場環境保全対策資料の一助とする。

6. 方法

琵琶湖主湖盆（北湖）の東岸の彦根港口から西岸の安曇川町舟木崎に至る約15.8kmの線上に観測定点（5 定点）を設定し、各月の中旬に1回、水象、水質、プランクトン等について調査した。



7. 結果の概要

(1) 透明度

平均透明度は11月に平年値（6.07m）を0.39m上回り、1月に平年値並（6.72m）になった他は、0.16m～2.08m下回った。

(2) プランクトン沈澱量

0～10m層では、8～9月に平年値を1.26～4.76cc/m³上回り、それ以外の月は0.27～9.47cc/m³上回った。10月は20m層以浅で藍藻類のAphanothece clathrataが多く、沈澱しなため定量できなかった。40～75m層ではほぼ通年、平年値を下回る量であった。

(3) 湖水温

4月は50m以浅で0.12～1.58℃下回った。

5～9月まではほぼ20m以浅は0.3～2.2℃下回った。

10月は全層で0.03～1.7℃上回った。

11月～12月は40m以浅で平年値を0.21～1.26℃上回った。

1月は全層で平年値を0.33～0.59℃上回った。

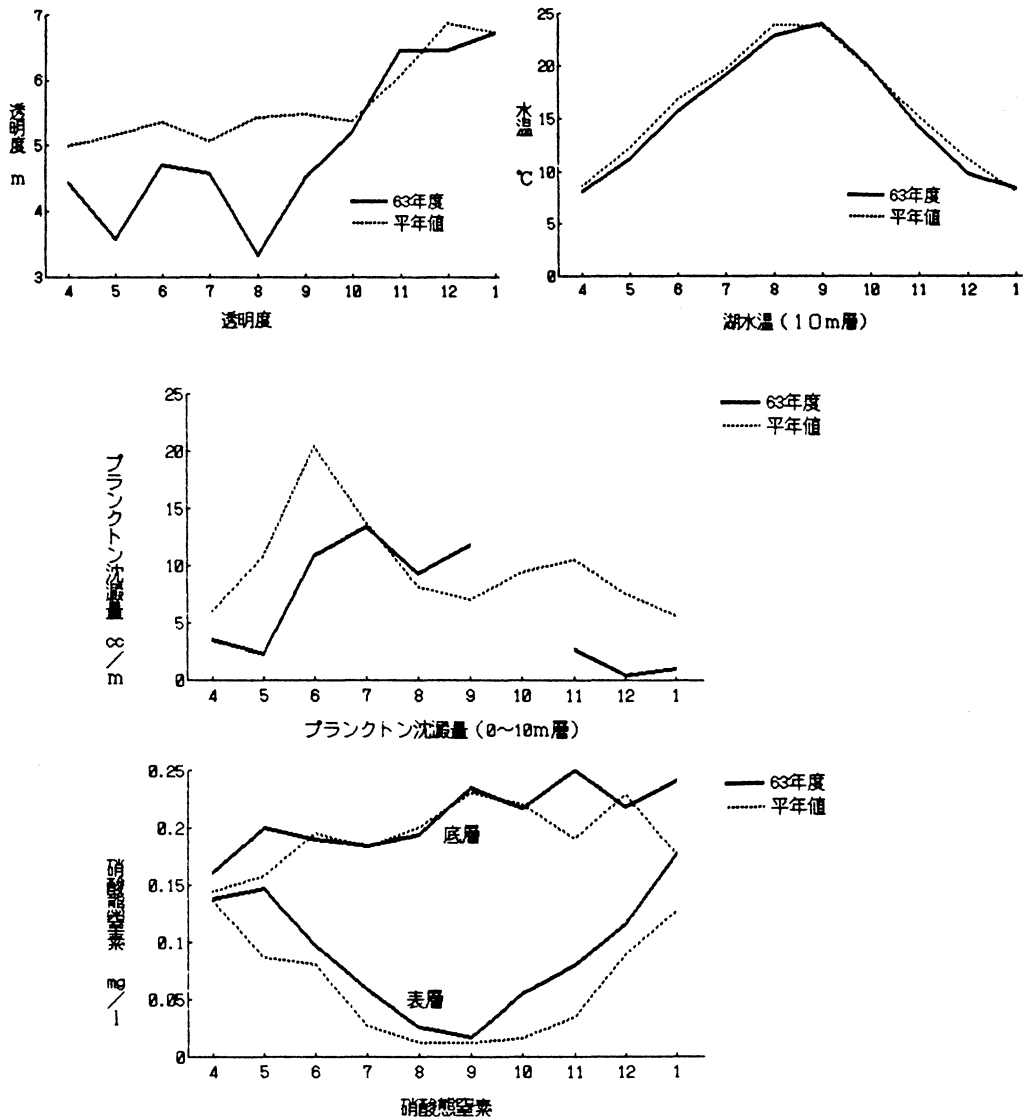
(4) 硝酸態窒素

表層部では、4月は平年並であったが、5

～1月は0.01～0.06mg/l平年値を上回った。

底層部では5月、11月、1月に0.04～0.07mg/l平年値を上回ったが、その他はほぼ平年並であった。

8. 主要成果の具体的数値



9. 今後の問題点

基礎生産力（一次生産）の動向を把握するためには、プランクトン調査に加えてクロロフィル量と一次生産量の測定を行う必要があると思われる。

10. 次年度の具体的計画

本年度と同様の内容で継続実施するが、一部クロロフィル量の測定を検討する。